

平標山からヤカイ沢滑降～上越の谷に舞う～

平成 16 年 3 月 17 日

酒井 利直

平標山（1983.7m）は、谷川連峰の最高峰仙ノ倉山の西に隣接する同連峰西端の山である。日本海を渡る強風は山頂に樹木の生育を許さず、2 千メートルに満たない頂上付近は高山の様相を呈する。この山に積もる豪雪は、西ゼンや笹穴沢という大きな滑滝を持つ名溪を形成し、夏には遡行者を魅了する。また冬にはヤカイ沢など高度差 1,000m 近い豪快なスロープを山スキー愛好家に提供する。アプローチの良さもあり、平標山は四季を通じて多くに登山者を引きつける北越の名山である。

今回は会社の O B 釜井さんと同僚宮本君の 3 人で、苗場にある釜井さんの別荘マンションに泊まり、登り約 4 時間半時間降り約 1 時間半（含む休憩）で平標山を往復した。

当日移動性高気圧に恵まれ、天気は晴。充実した山スキーを楽しむことができた。

平成 16 年 3 月 7 日（日曜日）晴

午前 7 時 15 分 別荘地の奥、除雪が切れたところでシールをつけたスキーを履く。（車は国道脇の駐車場に駐車）河内沢添いの道はかるうじてエッジが効くほどの堅雪が左手の川へ向かって傾斜しており、若干緊張を強いられる。河内沢にかかる橋を渡ると左手ヤカイ沢にスキーのトレイルが続いているのでそれを忠実にたどる。午前 8 時頃ヤカイ沢の全景が見えてくる。滑降ルートとしては下から見て平標山山頂のやや左側に広がる沢がもっともすっきりしているの

これを滑ることにする。標高 1,300m 付近やや傾斜がきつくなるところで、ヤカイ沢左岸の尾根に取り付き、大きな斜登行で高度を稼ぐ。支尾根の上に出たところでアイゼンの跡を見る。スキーの跡が全く残らない堅雪が続く。今回シール登行が全く初めての釜井さんは少し難渋してスキーアイゼンを取り出す。（しばらく



して又スキーアイゼンを外すが）

午前 10 時頃樹林帯を抜ける。ここから上は喬木帯で傾斜もきついので、スキーを担ぎつば足で登ることにする。(前頁の写真)

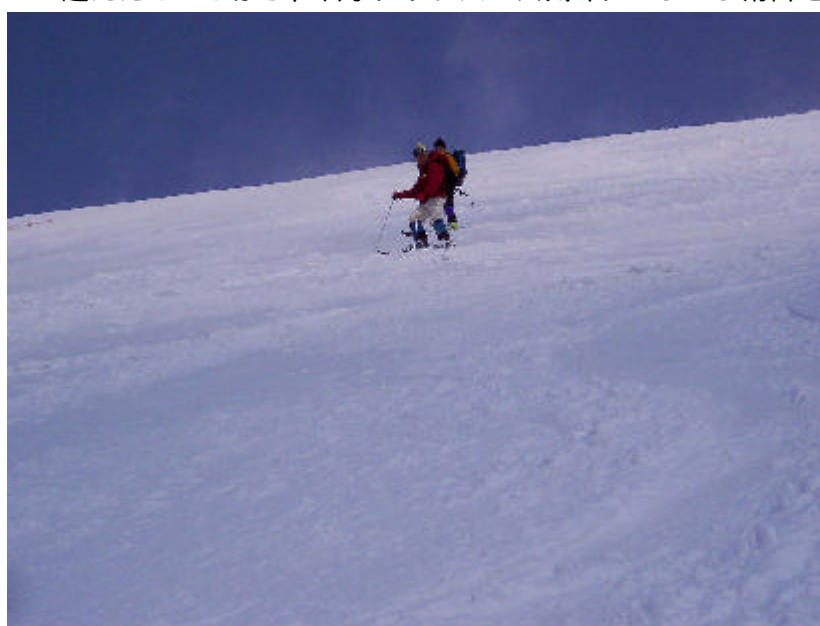


午前 11 時 15 分 主稜線に出る (標高 1,850m)。平標山頂上 (写真の左上) はもう一息の距離である。はるか下に辛うじて屋根だけ見せる平標山の家が見える。この辺りから上からテレマークで滑ってくる人あるいは平元新道からスキーを担いで上がってくる人等登山者が増えてくる。酒井はここから山頂まで再びスキーを履く。傾斜がそれほどきつくなければシール登行の方が楽だ。(後の二人はスキーを担ぐ) ガイドブック等には平標山から

平標山の家まで笹穴沢源頭部を滑るのが良いという記述がある。しかし平標山の家から樹林帯を下ることになると、笹穴沢源頭部の緩い傾斜を考えると今日滑るヤカイ沢の方が醍醐味は大きいようだ。

午前 11 時 45 分頂上着。北からの風が強く、日本海からの雲が平標山に押し寄せてくる。長居は好ましくない。シールをはがし等滑降の準備を整えると予定通り、松手山に向かう尾根をたどり、ピークを一つ越えたところから、右手にトラバース気味にいよいよ滑降を開始。滑降開始時間は午後 0 時 20 分。

足元にはヤカイ沢の底までさえぎるものもなく、高度差 700m 水平距離 1,250m すなわち傾斜約 30 度の雪の斜面が広がっている。素晴らしい高度感だ。慎重なターンを 2,3 回繰り返し、雪の調子を見ているうちに雪面の傾斜が一層増してくる。



最大傾斜は 35 度を少し越す位であろう。幸い雪の状態は良い。クラストした斜面に昨日降ったやや重い雪が 10 数センチ積もっているが、スキーの取り回しに難渋する程ではない。いざ、北越の谷へ。総てはこの瞬間にある。先行者の数本のシュプールが残るばかりの大斜面に飛び込む。新雪を求めて左右に斜滑降を伸ばし、シュプールを縫うような滑降を続ける。無音の空間に雪を削る音のみが響く。

しかし 5,6 回ターンを繰り返すと太股がパンパンになり、つい休みたくなる。やはり滑り込み不足だ。上を見ると私が貸してあげた山用ショートスキーを初めて使う釜井さんが、最大系斜線に添って果敢なショートターンで攻めてくる。とても 60 歳とは思えない元気な滑りだ。その後を宮本君も果敢に攻めてくる。宮本君も釜井さんと同じくショートスキーである。僕はハーガンの 170cm の板を使ったが、ショートスキーとどちらが良いだろうか？好みの問題だろうが、僕は再びここを滑る時があれば又通常のスキーを使うだろう。良く切れるスキーに乗って新雪に突っ込む楽しさは筆舌に尽くしがたい。まさに北越の谷に舞う瞬間だ。舞台が一級品の割には滑りがそれに応えたとはい切れないのが少し残念だ。それでも約 40 分程で標高差 700m のこの山行の核心部を終えてしまう。



左の写真はヤカイ沢下部から沢の全景を撮ったものだが、黒い直線が滑降ルートである。

ヤカイ沢の下部は傾斜が緩く、灌木帯を縫うように滑っていく。この辺りはショートスキーの方が楽そうだ。中々山スキーの道具に 100% の正解はない。

午後 1 時 20 分駐車場に到着。6 時間程度だが充実した山行だった。駐車場

場にはバスを含めて車が一杯で、中年男女が溢れていた。この山の人気を現すとともに中高年層に冬山ブームが来ていることをうかがわせるものがあった。

思えばこの 1 年間僕も山スキーに復帰して、四阿山、燧ヶ岳、会津駒ヶ岳等幾つかの名峰を滑ったが、平標山は燧ヶ岳と並ぶ良い斜面を提供している。燧ヶ岳の斜面がところどころ「田代」という緩斜面を持つのに比べ、平標山にはそういう緩みはない。

まさに平標山は山スキーの名山である。

(主な装備)

山スキー (170cm、フリートレック (ショートスキー)、シール、スキーアイゼン、ピッケ

ル・アイゼン（パーティに1つ。使用せず）、スコップ2・ゾンテ2・ビーコン2・お助け紐10m（以上使用せず）、ツェルト、ガスコンロ
以上

核心部ルート図

